

薬物相互作用FG

2014年度執行部メンバー:

設楽悦久(リーダー: Meiji Seika ファルマ)、前田和哉(東大院)、
千葉康司(横浜薬科大)、米沢 淳(京大病院薬剤部)、
山村直敏(第一三共)、山崎慎司(Pfizer)

薬物相互作用FGの主目的は、「薬物相互作用によって生じる血漿中濃度および薬効/毒性標的となる組織での体内動態変化を定量的に捉えた上での研究を進める」ための議論を深める点にある。

- ・ In vitro実験の結果に基づく相互作用の定量的予測
 - ・ 相互作用を回避するためのスクリーニング系や評価系の構築
 - ・ 創薬段階～臨床開発段階における取り組みに関する議論
 - ・ 医薬品の臨床応用にあたっての正確な相互作用予測の推進
- などにつなげることを目指す。

また、薬物相互作用FGでは、相互作用によって生じる問題は「薬物動態および効果の個体間変動」にあると考え、**相互作用に限らず、PKの個体間変動およびその回避**も議論の対象とする。

<最近の主な活動実績>

薬物相互作用FGシンポジウムを英語セミナーとの共催にて実施(2015.2 東京大学山上会館)

・Dr. Nina Isoherranen (Univ. of Washington)を招聘し、特別講演を行った。

日本薬剤学会第29年会にてラウンドテーブルセッション

「薬物動態の数理モデル解析の意義・可能性、そして限界」を実施(2014.5 さいたま)

・非臨床および臨床開発におけるモデル解析の事例およびモデルに基づいた相互作用の解析例についてご講演いただいた。

第34回日本臨床薬理学会学術総会にて共催シンポジウムを実施「日米欧相互作用ガイダンス改訂:生理学的メカニズムからのアプローチ」(2013.12 東京)

・本邦におけるガイドライン策定において中心的な役割を担われた樋坂章博先生にご講演いただき、本FG執行部メンバーによるアカデミアおよび企業の立場からの講演を行った。

<今後の活動予定>

これまで同様、**薬物相互作用または薬物体内動態の個体間変動に関するシンポジウム**を**単独または他学会との共催**にて開催する予定をしています。

今年度より、FG所属会員との連絡手段(メールなど)を整備し、**取り上げたいテーマ、聴きたい講演などについて広く意見を募集**するつもりです。講演会を運営する側でのご協力も歓迎いたします。

薬物相互作用または体内動態の個体間変動に関して、議論し、この分野の研究を深めたい方のご参加を歓迎いたします。
FGが主催する講演会などを一緒に創り出すメンバーをお待ちしております。